

—大阪大学— NewsLetter

阪大 StoryZ(ストーリーズ)



[元気です！阪大生]

優雅に、情熱的に。
ダンスフロアを彩る個性

Interview: 大阪大学舞踏研究会

[先端研究]

コロナ禍で“変容する私たち”
心を動かす「状況の力」を紐解く心理学

Interview: 三浦 麻子 教授



優雅に、情熱的に。 ダンスフロアを 彩る個性

「さあ、舞台へ」

瞬時に凛々しい空気が二人を包む。

華麗なステップ。華やかな衣装。

驚くことに、ほぼ全員が

大学入学後に始めているのだという。

全国大会で総合優勝を成し得た秘密とは——。

主体性と多様性が同居する競技ダンスの世界。

「自分が楽しみ、見る人を楽しませたい」と

秘めた情熱がほとばしる。



■ 大阪大学舞踏研究会

創立1965年。男女ペアで踊り、その技術を競う「競技ダンス」に取り組む大阪大学の公認団体。現在の部員は約40人。2020年12月、第65回全日本学生競技ダンス選手権大会の団体の部で初の総合優勝を飾った。21年7月の大会では惜しくも準優勝。



息をするように自然なこと。
自己表現であり、
生きていることの証し。

—「三浦教授にとって研究とは？」

先端研究

コロナ禍で“変容する私たち” 心を動かす「状況の力」を紐解く心理学

大学院人間科学研究科 教授 三浦 麻子

想像して欲しい——新しい靴を履いた日。電車に乗るあなた。外は、天気もよく涼しそう。予定までは時間もある——予定を変更して、目的の駅の手前で降りて歩く人、前から気になっていた店に寄り道する人もいるのではないだろうか。私たちの心理や行動は、良くも悪くも周囲の状況にあわせて柔軟に変化する。そう、良くも悪くも。例えば、事故や災害は、私たちのストレスを一気に高めてしまいかねない状況だ。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大は社会の状況を大きく変えた。たまたま感染してしまった人が周囲から非難され、後ろめたい思いを抱いてしまうのはなぜなのか。恐怖や不安といった負の感情に、私たちはどう対処すればよいのだろうか。「状況の力」は人の心を動かす。このメカニズムを探求する三浦麻子教授に、社会心理学を通じて見えてきたコロナ禍に置かれた私たちの特性、よりよく生きるヒントを聞いた。

感染を「自業自得」と思う日本人

COVID-19の感染流行の早期には、感染者が出た医療機関、介護施設、大学などに対する誹謗中傷、インターネット上の感染者捜しや個人情報の拡散といった人権侵害が起きた。今なお続く感染症に対する忌避の感情や不安は、处罚感情や差別、偏見につながっていないうだろうか。

「コロナ感染は自業自得だ」——日本では他国に比べてこのように思う人が多いという。

三浦教授は2020年に続き、21年3月に、日本と海外の計5か国でそれぞれ約400名を対象に調査した。「コロナウイルスに感染する人は、自業自得だと思う」との考えについて、「非常にそう思う」から「まったくそう思わない」まで6段階で尋ねた。この考え方を肯定した人は、アメリカ、イギリス、イタリアの欧米3カ国では2~5%台、中国は3.48%なのにに対し、日本では17.25%。明確な差があった。

ある人に起こった不運な出来事を、「自分はあんなことにはならない」と思いたいがゆえに、その人の過去の道徳的失敗のせいにして非難することがある。心理学で「内在的公正推論」と呼ばれる心の動きについて、三浦教授は「以前日本で行った調査でも同様の傾向がみられたので日本でその傾向が強いことは予想していましたが、特に欧米の数値が非常に低いことに驚きました」。その理由については、「『そのようなことを言ってはいけない』という宗教的規範が背景にあるのではないか」と推論する。

全てが研究のきっかけに

この「自業自得」の研究はさまざまなメディアに取り上げられ話題となつたが、三浦教授は他にもコロナ禍における社会心理を研究している。

例えば、COVID-19の感染拡大が世界規模で進みつつあった2020年1月末から継続して、広範なパネル調査(一定期間を置いて同じ人に同じ質問をする調査)を実施し、調査結果をWeb上でも公開している。「今何が起きているのか、もしくは

起きていないのか。データがないと何も言えません。データをみると、まだ日本国内では今ほど感染が拡大していなかった20年1月末から3月までの時点で、既に強く感染を恐れる高い緊張状態にあったことが分かります」。調査からは、感染を避けたいという気持ちの強さが、外国人に対するネガティブな態度と関連があることも明らかになった。

その緊張状態は高いまま2021になんでも続いているといふ。「今後、『平時に戻った』といえる状況まで観察すれば、感染脅威にさらされた時の社会心理がより浮かび上がってくるはず。早くその日が来てほしいですね」と話す。

私たちの心理は次々と変化する社会状況に影響を受け続けている。「社会心理学で「状況の力」を検証する時は、参加者に実験室に来ていただき、人工的に特定の状況を作り出してデータを集めることができます。しかし、COVID-19は世界をガラッと変えてしまった。つまり、自然に「特定の状況」が生まれたわけです。『今、研究せずにいつするんだ』という心境ですね」。あらゆる状況の変化が研究のきっかけになる。

SNSはそもそも 「お気持ち」を共有するもの

これまでにも2011年の東日本大震災直後、Twitterに投稿された情報を分析し、緊急事態でのSNSは不安を訴える投稿が多くなされること、そして強い不安を伴う投稿は極めて強い伝播性を持つことを明らかにしている。

「簡単にいってSNSは『お気持ち』を共有するもの。強い感情、特に恐怖や不安といった負の感情が共有されやすいメディアです。そして、負の感情にとらわれている人は冷静な判断をしにくくなることも意識しておくべきです」。虚偽情報を含め、あふれる情報の選択に迫られたあの時の状況は、コロナ禍の現状にも通じる。

よりよく生きるために: 心理学からの処方箋

社会的接触を減らそうと生活する中で、私たちは少なからず心身にストレスを抱えている。そんな状況に対して、心理学は対処法を教えてくれもする。

三浦教授らは、日本心理学会のホームページで一般の人向けにストレスマネジメントの方法などを発信。「新たにテレワーク(在宅勤務)をする人へ」「社会的距離を保つよう、感じよくお願いする方法」など幅広い視点から、アドバイスを送っている。

また、大阪大学の「感染症総合教育研究拠点」では科学情報・公共政策部門の一員として、正しい情報発信について一般の人々、行政向けに提言していく役割も担う。

社会心理学は、人々の行動をデータとして可視化し、行動の変容に役立てることができる。コロナ禍で起きた感染者や外国人への差別や偏見について、三浦教授は「結核やハンセン病患者に対するそれと同じ構図」だと指摘する。「私たち人間は残念ながらできが悪い。だからといって『人間とはそういうものだから仕方ない』で終わらせてはいけない。多くの人たちがなるべく幸せに生活できるようにすべきだと私たちが望むなら、その性質を自覚した上で少しでも頑張らないと、できが悪いままなんです」。

先の見えない不安の渦中に生きる私たちにとって、自分たちを知ることは、よりよく生きるために道標となるだろう。

■ 三浦 麻子(みうら あさこ) プロフィール
大阪大学大学院人間科学研究科教授。
1992年大阪大学人間科学部卒業、95年大阪大学大学院人間科学研究科博士課程退学。
神戸学院大学人文学部准教授、関西学院大学文学部教授などを経て、2019年4月から現職。博士(人間科学)。感染症総合教育研究拠点を兼任。専門は社会心理学。

独創。

他人が考えないことを考え、
他人がやらないことをやること。
性急に表層の答えを出そうとせず、
不確定さ、不思議さの中で、
正解のない問題を
腑に落ちる迄考え続ける営み。
苦しいが何かをつかみかけた時の
喜びは計り知れない。

—「満留准教授にとって研究とは？」

先端研究

辿りついた“スマート触媒”的開発

～常識に逃げない挑戦が生んだブレークスルー～

大学院基礎工学研究科 准教授 満留 敏人

プラスチックや合成繊維、医薬品など私たちの便利で豊かな生活を支えているのが様々な化学製品だ。一方で大量生産・大量消費の結果として、環境に大きな負荷をもたらしてきた側面を見逃せない。こうした反省から、20世紀末になって「グリーンケミストリー(環境に優しい化学)」が提唱された。そのカギを握るのが「触媒」である。触媒は、省エネ・高効率、そして廃棄物を出さないものづくりを可能にする。極めて微細な金属粒子を使った画期的な触媒で、高温高圧で大量のエネルギーを消費する反応を、世界で初めて「温和な条件」で実現した大阪大学大学院基礎工学研究科の満留敏人准教授(触媒設計学)に、次世代の触媒技術が秘めた可能性を聞いた。

100年来の「夢の反応」を実現

満留准教授が研究するのはナノ(10億分の1)メートル単位の金属粒子を使った触媒だ。地球を10億分の1にしたらおよそ1.27cmのビー玉くらいの大きさになる。それほど小さなナノメートルサイズの金属粒子は普通の金属とは異なる性質を発揮する。これを武器に挑んだテーマが、「温和な条件下で進行するアミドの還元反応」だった。これは米国化学会グリーンケミストリー会議が2005年に次世代の研究ターゲットとして掲げた12の「夢の反応」の一つ。この反応は有機化合物のアミドと水素を反応させ、医薬品や農薬、電子材料などに不可欠なアミンを生成するものだ。この水素化は、アミン以外に水しか排出しないクリーンな反応だ。しかし化学的に極めて安定なアミドを水素化するには水素を数百気圧に加圧し、かつ高温にした過酷な条件が必要だった。約100年前から多くの化学者が「温和な条件」での反応に挑んできたが、誰も成功しなかった。

満留准教授は様々な物質を試した結果、白金とバナジウムがわずかながら触媒活性を示すことに注目し、この2種の金属を複合化した直径約2ナノメートルの超微細粒子をつくった。これをアミド還元の触媒に使うと、同会議がいう「温和な条件」(水素30気圧・70°C以下)下でアミドは全て水素化され、99%収率でアミンが生成した。室温の25°Cにしても、つまりエネルギー(熱)を加えなくてもアミンができる。組み合わせをロジウムとモリブデンに変えると、1気圧の水素・室温でアミン収率92%という驚くべき結果が。今までとは全く違う世界が広がった。これらのナノ粒子触媒は固体のため、反応後ろ過して容易に回収でき、繰り返し使っても能力は落ちない。究極のエコ触媒が実現した。常識に逃げ場を求めず、答えのない状況に踏みとどまることで漸くたどりついた成果だった。

“妄想”から生まれた ブレークスルー

次に挑んだのはやはり化学工業で重要

な、ニトリルを高圧水素で水素化してアミンにする反応だ。従来はラネー触媒と言われる、スポンジ状に細かい穴の空いたニッケルが触媒として広く使われてきたが、ニッケルは安価な半面で錆びやすく、大気中で発火する危険がある。その弱点を克服すべく狙いを定めたのは、錯体触媒のコンセプトを、ナノ粒子触媒に導入する試みだった。

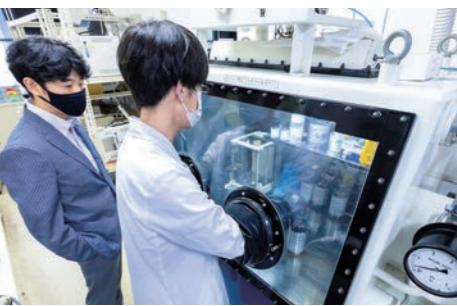
「錯体触媒は、リンや窒素などの化合物が配位子として金属原子を取り囲み、安定化させることで活性が高まります。では金属ナノ粒子の骨格そのものにリンを配位子として組み込めばどうなるか? —— そう“妄想”したのです」と話す。取り組んでいた他の研究を一度すべて止めて、この誰も取り組んでいないテーマに挑んだ。

試行錯誤の末、コバルトとリンが2対1の比率で並んだ長さ20ナノメートルの六角柱のリン化コバルトナノ結晶をつくり、ニトリル溶液に加えるとこれまで開発された触媒の20~500倍の世界最高活性を示した。リン化コバルトナノ結晶を大気中に置いても、非貴金属のコバルトは、リンに保護されているため、発火したり、錆びて触媒活性を失うことはなかった。常圧の水素でも反応し、繰り返し利用も可能だ。

大気中で安定なリン化金属は、金属の種類やサイズや形状、リンの比率を変えるなど無数の組み合わせがあるため、今後、さらなる新機能が生まれる可能性が高い。安全性・耐久性・高活性を兼ね備えた「スマート(賢い)触媒」として社会実装に向けて取り組んでいる。

目指すは「持ち運べる化学プラント」

満留准教授の研究室はバランスボールで溢れている。ブレークスルーの秘訣を満留准教授は「常識から自分をはずすこと」だと言う。満留准教授はそれを意識的に行っていて、実はバランスボールもその例のひとつである。バランスボールに邪魔されながら部屋を出る動線を考える、そんな日常の小さなつまづきや違和感から今まで見えていなかったことが



▲「スマート触媒」の開発により、研究室で従来型のラネー触媒を使うことはなくなったが、満留准教授は学生にあえてデリケートな扱いが必要なラネー触媒での作業を体験させる。「実際に作業してみて、扱いづらいということを実感してもらう。実感せずに“妄想”を思いつくことはできないから」と満留准教授は言う。

見えてたりする。

「コペルニクスは太陽や地球を発見したわけではない。しかし「地球の方が動いている」と常識を逆転させた瞬間に世界の見え方は変わった。リン化金属ナノ粒子も新物質ではない。けれども、私たちがリンをナノ粒子の配位子とみなした時、リン化金属の解釈が変わり、新触媒になるのです」

安全で温和な条件で駆動する「スマート触媒」の開発を足がかりに、今後は眞の意味での化学プラントのグリーン化を目指す。「ものづくりのある過程だけを省エネにするのではなく、製品設計、原料選択、製造方法、使用方法、リサイクルなど製品の全ライフサイクルを通して環境に優しい必要がある」。究極の姿として描くのは人間が持ち運べるモバイルプラント。必要なものを必要なだけ、必要な土地でつくる「地産地消型」の製造ラインだ。

「インターネットでカセット型触媒を購入し、卓上型の装置にカシャッと差し込むと反応が起きて製品ができる。そんな時代がやってくるかも」と化学の未来を見据える。

■ 満留 敏人(みつどめ たかと) プロフィール

2006年大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻博士課程修了、同年基礎工学研究科特任助手。07年同特任助教、同年10月より助教。16年8月から現職。博士(工学)。専門はナノ材料や触媒の開発。

すべての阪大生が開く 「学問への扉」

250クラスから自由に選ぶ初年次教育

大学での学びは主体的で創造性豊かであるべきだ。
だが、高校までの受動的な知識蓄積型学習からの転換は容易ではない。
この問題に対応すべく、初年次教育に注目が集まっている。
大阪大学でもカリキュラム改革で、学部1年生対象の
少人数セミナー型必修科目「学問への扉」が2019年度からスタートした。
約250の様々な内容のクラスがあり、
分野をまたいで専門外の授業を履修することを推奨している。
学生からは「最初は不安もあったが見聞が広がった」などと好評だ。
学生アンケートの満足度も19年度は平均4.09、
20年度は平均4.37と高水準で推移している(5段階評価)。
制度設計を担った全学教育推進機構・副機構長の宇野勝博教授と
「学問への扉／アドヴァンスト・セミナー」部会長で、
同科目的授業も受け持っている同機構の村上正行教授に
狙いや展望を聞いた。



「全教員担当制」で多種多様な授業

標高77.3㍍の待兼山周辺に広がる豊中キャンパス。「学問への扉」は約3400人の学部1年生が必修科目を学ぶことが多い同キャンパスを中心に開講しており、愛称は地名から「マチカネゼミ」だ。入学直後の春～夏学期の授業で、1クラスの基本は17人以下。内容は千差万別だがグループワークがメインのクラスが多い。異分野の学生たちと一緒に関心のある事象を学びながら、レポート作成やプレゼンテーションなど、学生としての基礎的な能力も身につけていく。

特徴的なのが「全教員担当制」を阪大として導入したことだ。「ビブリオバトル入門」(書評)、「わたしたちの暮らしと放射線」(放射線解析)、「缶ジュースを冷たく飲む方法」(熱工学分野)、「脳と心に効く薬」(医療分野)。タイトルを並べるだけで、その多様性は一目瞭然だ。時間割の関係で学部によって受けられる授業は限られるが、それでも約70クラスから選択できる(希望者多数の場合は抽選)。普段は授業を受け持たない組織も授業を

担当しており、宇野教授は「大学全体が新入生に『ウェルカム』という姿勢を見せることで阪大というコミュニティの一員になったと実感してもらう」と狙いを語る。

学部混合で「違う視点」を知る

授業によって割合こそまちまちだが、文系と理系の学生が半々のクラスもある。そんな学部混合の意義は、多様な意見を交わすことにある。「ポップカルチャーと情報社会」と題しメディア・リテラシーを教えている村上教授は、学生たちの議論を活発にするためSNSでの「炎上」事案や、人工知能に関する話題など、あえて絶対的な正解のないものを扱っている。村上教授は「理系と文系で見え方が全然違うことがある。どちらが正しいということではなく、別の視点があるという気づきがあるだけで、その後の学び方、考え方方が大きく変わってくる」と話す。専門性は各学部で自然と身につく。だからこそ、学部1年生の段階で異分野に触れ、主体性や想像力を育てるきっかけを作る。

始まって分かった「メリット」

想定ていなかった利点も見えてきた。マチカネゼミは活動重視のため、点数ではなく、成績評価は合否判定。村上教授は「成績評価にとらわれることなく思ったことを言ってくれる学生が多い」と笑顔を見せる。

ある理系の担当教員は「文系の学生は分からぬことを『分からない』と質問してくれるのが新鮮だった」と語っている。宇野教授によると「学生は自分の専門分野について『分かっていないと思われたくない』から、質問しないことが多い。その授業で理系の学生はタジタジだったが、文系の学生の質問をきっかけにクラス全体がよく発言するようになったようだ」とのこと。専門外の学生の質問が呼び水となり、クラス全体の理解が深まるのだという。教員も学生から刺激を受けて、よい循環が生まれているのだ。

学問「へ」の扉

阪大の目玉授業になることを目指す「学問への扉」。ネーミングにも特別な思いが込められている。宇野教授は「開けたら学問がありますよ、ではない。学問に至る扉、(学問の)道に進むためのきっかけにしてほしい」という意味を『へ』の一文字に込めたと振り返る。そう言われると、受動的な学びから主体的な学びへと切り替わっていくベクトルが見えるような気がしてくる。

阪大ならではの特色を持った授業がそろうマチカネゼミ。扉の先には、どんな世界が待ち構えているのだろうか。「阪大生には自分の専門分野だけに閉じてほしくない。人は生涯にわたっていろいろなことを学び続けていくことになる。社会に出てからも『私これ知らんから』と避けるのではなく、専門を超えていろんな視点で物事を見ることができる柔軟な思考をもってほしい。マチカネゼミで学んだことが、いつか何かで活躍できるきっかけになるはずだ」。村上教授は学生たちに向けて、そう呼びかけた。



2020年度に学問への扉を履修した植田 雄士さん(文学部2年)

僕は哲学専攻なのですが、統計にも興味があり理系の「データのみかた」を履修しました。数式の話になるのかなと考えていましたが、ネット上に公開されているなじみのある数字を使って議論ができる、理系の学生と同じ土俵で学べました。関心を持っている「科学哲学」の学習にも生かせそうです。1年生は専攻する分野をいち早く勉強したいという気持ちがあると思うのですが、勇気を持って違う分野に踏み出すと視野が広がって面白いですよ。



宇野 勝博 教授

村上 正行 教授

■ 学問への扉(愛称「マチカネゼミ」)

少人数セミナー型の学部1年次必修科目。学部・学科を問わず、250のクラスから自由に選択することができる。

■ 全学教育推進機構

全学共通教育の企画開発と実施推進、さらに、教員の授業改善、学生の主体的学びに関する支援を行う組織。

[Web]
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/about-us/>

これまでに感謝し、 これからも末永く。

大阪大学は、
次の10年、100年へと歩みを進めます。

1931年に創設された大阪帝国大学(のちの大坂大学)と、1921年に創設された大阪外国語学校(のちの大坂外国语大学)は、ともに市民の厚い支援によって大坂の地に建学されました。

皆様に支えられ、本年2021年、大阪大学は創立90周年、大阪外国语大学は創立100周年を迎えました。

これまで両大学を見守り、ご支援くださったすべての方に深く感謝いたします。

大阪大学と大阪外国语大学は2007年に統合し、新たな大阪大学として、より一層力強く歩みを進めております。

幾多の年月をかけ先達が築いてきたものを想い、つなぎ、つむぎあいながら、2021年、さらにその先へ。

大阪大学は、これからも、複雑化かつ多様化する地球規模の社会的課題に向き合うべく、自己革新に努めます。

そして、これからも変わらないモットーとして「地域に生き世界に伸びる」を掲げ、社会との共創により、生きがいを育む社会を創造し、世界屈指のイノベーティブな大学を目指してまいります。

これからも末永く本学に対しまして、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

大阪大学第18代総長
西尾 章治郎



Osaka University Partner Summitを開催

2021年4月30日(金)、大阪大学創立90周年・大阪外国语大学創立100周年記念事業国際シンポジウム「Osaka University Partner Summit」をオンラインで開催しました。「COVID-19後の社会課題への大学の役割(The Role of Universities in Facing Societal Challenges and Recovering from COVID-19)」をテーマに掲げ、関係の深い海外パートナー大学を招き、今後の連携について展望しました。

当日の様子は動画や写真で下記Webサイトにて公開中。

Osaka University Global Engagement
[URL] <https://gi.osaka-u.ac.jp/>



大阪大学「学生動画コンテスト」表彰式及び 国際学生SDGsフォーラム【オンライン】を開催

2021年6月25日(金)、周年の記念イベントとして「大阪大学『学生動画コンテスト』表彰式及び国際学生SDGsフォーラム」をオンラインで開催しました。同コンテストは、「3 Minutes of Inspiration for Sustainable Development」と題し、本学と海外協定大学の学生を対象に、SDGsをテーマとする3分間の動画作品を募集して実施したものです。フォーラムでは、受賞学生によるパネルディスカッション形式の意見交換が行われました。

【最優秀賞】 Amreta: Creating less-plastic world
(インドネシア・ガジャマダ大学)

全ての受賞作品は「学生動画コンテスト」YouTubeチャンネルからご覧いただけます。

[URL]
<https://www.youtube.com/c/OUStudentVideoContest>



産声をあげた 感染症の経済学

混沌とする社会に射す希望の光

共創

大阪大学感染症総合教育研究拠点
大竹 文雄 特任教授(常勤)／栄誉教授

私たち社会は悩みながらも、前へと踏み出してきた。

感染症は、私たち社会にいくつもの課題を突き付ける。例えば「人と人とが交流する経済・社会の活動と感染症対策とをどう並立させるのか」も、その一つ。この答えの見えない課題に、経済学者たちが光を灯そうとしている。「いのち」を守るために、感染症を完全に抑え込もうとすれば、交流を伴う活動は止めざるを得ない。それが中長期に及べば「くらし」の破綻につながってしまう。「いのち」と「くらし」、その両方を守るために、いつ何をすべきなのか？

2021年4月に大阪大学感染症総合教育研究拠点に移籍し、経済学者として感染症に立ち向かう大竹文雄特任教授(常勤)(以下、大竹教授)に、感染症と経済の関係、この1年で私たち社会が学んだこと、将来に繋がる取り組みを聞いた。



研究者は誰かの役に立ちたい

COVID-19に対するワクチンや有効な治療法がなかった2020年前期は、感染を抑えるために「経済を止める」という方策しか取れなかった。しかし医療体制の拡充、治療法の確立、ワクチンの開発で、感染と経済活動のトレードオフを議論できる状況になってきた。

大竹教授は当時を振り返り「2020年の当初から、世界中の研究者が分野に限らず、感染症の社会に有効であろうことを考え、自発的に取り組んだ。感染予測のシミュレーションをしたり、新型コロナウイルスについて個人のWebページで解説したり。経済学分野でも同様です。研究者って誰かの役に立ちたいんですよね。ただ、反省も口にする。「専門家会議に参加していて、経済学の研究成果を実際の対策に繋げようにも、どの経済学者が、感染症の問題のどこに関心を寄せ、どんな研究に取り組もうとしているかを把握できていなかった」。

有事に動ける研究者マップ

クラスター班で有名になった感染症を研究する分野は、SARSやMERSが発生した時にできた研究ネットワークをCOVID-19に活かすことができた。しかし、経済学分野では、当時幸運にも日本国内がパンデミックに至らなかつたことで感染症と経済に関連する研究は育たなかつた。

「研究者のネットワークがあれば、有事の際に必要なデータと分析にすぐに取り掛かることができ、対策に生かすことができる」。この課題意識から、2020年度に日本経済学会の会長だった大竹教授は、同年夏、学会内にコロナワーキングを立ち上げ、感染症に関する経済学研究の内容把握とネットワーク構築に取り組んだ。

毎日変化する感染の動きと経済の関係を分析するために、今まで経済学で用いられてこなかったデータが使われるようになった。経済の動きに即応する指標を見いだすため、POS(販売時点情報管理)やクレジットカード、インターネットの家計簿による消費データ、位置情報を利用した人の流れの把握など瞬時のデータの活用が、急激に進んだ。

今回構築された研究ネットワークは、感染症総合教育研究拠点に大竹教授らが参画したことでの感染症と経済学研究についてのハブ機能を拠点が担い、将来にむけて維持・強化することが可能となった。例えば、拠点のリソースを生かすことで、感染症と経済に関する共同研究を促し、新たな分析手法の開発や、一連の緊急事態宣言などの対策で効果的だったこととそうでなかったことの客観的な検証、民間等との連携、人材育成などに繋げることができる。

一律の「届けメッセージ」からの脱却

刻々と変化する感染状況の中で、社会の人々にメッセージをどう届け対策を実効性のあるものとするか、その難しさも露呈された。「行動変容」と一言に言っても、年齢や職種、地域など個人の属性によって、受け止め方は異なる。

大竹教授は「政府や自治体がメッセージを出す際に一番効果的なものは何かは状況によって刻々と変わらうえ、出して



みないと分からぬ面もある。十分に事前検証せずに出すと効果がなかったり炎上したりする。では、どうしたらよいか。個人の手元にまでインターネットが普及した時代なので、短いスパンでテストを繰り返し、実際のメッセージを決めるという手法が可能になっている。広く一斉に同じ情報を届けるマスメディアを利用する旧来の方法から脱し、年齢層やグループごとに内容や手段をきめ細かく変えるなど、行政は情報発信のあり方を見直す必要がある」と指摘する。

実際に大竹教授が専門とする行動経済学の研究では、この手法を活用し、40歳以上の男性に対して、風疹のワクチン接種を促進するための有効なメッセージを見いだし、接種率向上に寄与した。COVID-19に対しても、経済学の観点から有効なメッセージを探り、政府の分科会などで提言している。昨年の「ビデオ通話でオンライン帰省」などの呼びかけも、禁止ではなく肯定的に伝える方が効果的だという研究成果が反映された。

経験は糧となる

残念ながら、まだしばらく感染症との闘いは続くだろう。ワクチンの登場によって光は射しているが、デルタ株やラムダ株といった感染力の強い変異株の出現などで未だに収束の兆しは見えない。

「私たちは耐えるしかないのだろうか。大竹教授は、行動経済学の知見から前

向きに暮らすためのヒントをくれた。「閉塞感が続くとモチベーションを上げるのが難しいですよね。例えば勉強やダイエットなど目標を達成したいときには、スケジュール帳に『●月○日■時に○をする』と具体的に書くといい。人間は楽がしたい生きもの。いざやろうとしても、何をするかから考えると面倒なので、つい先送りしてしまう。自分の背中を押してくれるものがあると行動につながりやすくなる。ワクチン接種などもそう」。

大竹教授が研究で大事にしていることは「謎を見つけること」だという。そして、その謎を解くことに全力を傾ける。謎ばかりのコロナ禍に、感染症の経済学が産声をあげた。明けない夜はない。いま私たち社会が体験している辛い経験は、研究者らの手によって必ず将来への糧となる。

■ 大竹 文雄(おおたけ ふみお) プロフィール

大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授(常勤)／栄誉教授。
1983年京都大学経済学部卒、85年大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了、同年大阪大学経済学部助手。社会経済研究所教授、理事・副学長などを経て、2018年4月から同大学院経済学研究科教授。2021年4月から現職。博士(経済学)。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会メンバーも務める。著書に『行動経済学の使い方』(岩波新書)など多数。専門は行動経済学、労働経済学。



卒業生登場

“おもしろい”ことに貪欲に。

お笑いが好き、大阪が好き
芸人応援バー経営者の目指す先

芸人応援バー「舞台袖」オーナー 加藤進之介さん

大阪・ミナミに芸人を応援するバー「舞台袖」がある。

オーナーは大阪大学経済学部の卒業生、加藤進之介さん。

店内にしつらえた舞台では連日、学生や社会人などを含む

多種多様なお笑い芸人のライブが開催されている。

お笑い好きが楽しく語り合う場としてにぎわう。

今年4月には加藤さんが呼びかけて、

大阪を拠点とする芸人ユニット「WEST ANTS」を結成した。

「大阪からの芸人の流出を食い止めたい」との思いを原点に、

芸人支援のアイデアを次々と実行に移している。

休学して芸人養成所へ

大阪で生まれ育った加藤さんにとって、お笑いは常に身近にある存在。大学に入っても夢をあきらめられず、4年の時に休学して芸人養成所「吉本総合芸能学院(NSC)」に入った。

「僕は凡人ですが、中学生の頃から『ツッコミおもしろいな』と声をかけてもらつて友達ができるようになった。他に自信を持つものがないと、『芸人しかない。ツッコミで生きていこう』と考えました」

ところが、周囲は誰も賛成してくれない。特に母は大反対。「芸人になりたいです」と土下座しても、「あんたのことおもしろいと思ったこと1回もないし、応援できるわけがない」と突き放された。

反対を押し切って好きな道へ進むからは、「絶対に売れない!」と考えるようになった。「NSCの最後のライブで1位を取りなかつたら芸人を諦める」と、自らに厳しい条件を課した。加藤さんは当時を振り返り、「芸人として生きていく覚悟を決めたかったからです」と分析する。

お笑いへの情熱を別の形で

養成所での成績は優秀だった。同期入所者が約400人いる中、最初の「ネタ見せ」で全体のトップ。1年の養成期間を締めくくる最後のライブではトリを務めた。しかし、結果は4位。「へこみました」。自分への約束通り、芸人の道をすっぱりと断った。復学して普通に就職活動をし、商社に就職した。

家と会社の往復ばかり繰り返す毎日に對して、モヤモヤした思いが溜まっていた。「おもんなない、この生活」。商社マンとしてスタートを切ったものの、中途半端でくすぶっている感があった。養成所でコンビを組んでいた同期は芸人としてすごい勢いで売れていった。

「『俺は俺で今、楽しい』という状態に持ていかないと、きついな」。そんな気持ちで就職2年目の12月ごろ、バーテンダーやライブスタッフのアルバイトを始めた。「お笑いのライブハウスを經營したいと思うようになり、準備のためバイトで経験を積むことにしたんです」。翌年には退社を決意し、バイトの時間を増やした。

「毎日何してんのやろ」と自問すること

がなくなった。

たくさんの応援が原動力

店の基本コンセプトは「お笑い好きが集まるバー」。映画を見た後に楽しく感想を語り合うのと同じように、お笑いのライブの後、お客様が「このネタが面白かった」と話し、加藤さんが「面白いですよね」と返す。構想をバイト先で話し、SNSでも発信すると、たくさん的人が応援してくれた。オープン前の店舗の改装には知人のほか、SNSで知ったという人も手伝いに駆けつけてくれた。

芸人になることに反対していた母も、今度は応援してくれた。「芸人やるのと一緒にやらないの?」と聞くと、母は「ぜんぜん違う。芸人は自分の力ではどうにもならない部分が多いすぎる。あんたがやろうとしていることは頑張ればなんとかなる」と言ってくれた。嬉しかった。

2019年の1月に商社を退職し、6月には大阪市浪速区で「舞台袖」をオープンした。「お客様が飲んでくれたお金は、芸人に回すように」というのが基本姿勢だ。

「芸人の給料が低いのが嫌だったんです。お客様を呼べば呼ぶほどお金がもらえるという仕組みになっていないから、応援する人がチケットを買っても芸人には届かないのです」。そんな不条理に切り込みたかった。

自らを「飽き性」と評する。でも、この仕事はずっと続けられると実感している。「毎日変化があって、充実しています。次に何をするかアイデアが湧いてくる環境が楽しいですね」。2020年2月には、「舞台袖」を大阪市中央区の難波駅近くに移転した。舞台が広くなり、ライブの開催本数も増えた。

流出を食い止めるために

「舞台袖」を經營する理由の一つが、「大阪から芸人が流出するのを食い止めたい」という思いだ。一般には大阪が「お笑いの本場」で、ライブの場もたくさんあると思われがちだ。しかし、「実際は違う」と加藤さんは訴える。「東京には事務所がたくさんある。芸人もライブを企画する裏方も、ライブハウスも多い。ライブが盛んだから、お笑いの質も大阪

より良くなっています」。活躍の場を求めて、環境が良い東京に出て行く人が増えているという。

ライブハウスでさまざまな企画に取り組むのも、若い芸人を大阪につなぎ止め、大阪のお笑いのレベルを下げないという目的があるからだ。会社勤めや学生をしながら活動をする芸人限定のバトルライブ「二足のわらじ」もその企画の一つ。今年4月には、9組18人の芸人ユニット「WEST ANTS」の結成を仕掛けた。事務所に所属しないフリーの芸人や学生芸人も含め、大阪で活動中の“おもしろい”人たちが集まった。「舞台袖」2号店の構想も練っている。

加藤さんはあくまで大阪にこだわる。「住んでる人間は大阪の方がおもしろいじゃないですか。地元だし、廃れてほしくないですね。大阪で盛り上げたい」。次に何をしようか。“おもしろい”ことを求めて、加藤さんの挑戦は続く。



▲ 加藤さんはここから舞台を見守る。照明やSEなどの機材が並ぶ。

■ 加藤進之介(かとう しんのすけ) プロフィール

大阪府豊中市出身。2016年大阪大学経済学部卒業。在学中1年間休学し、吉本総合芸能学院(NSC)に通う。芸人にはならずして商社に就職したが、「お笑い好きが集まるバーを經營したい」と考え19年1月に退職。同年6月に大阪市浪速区にバーをオープンした。20年2月、大阪市中央区西心斎橋に移転。学生時代はテニスサークルに所属。

[Twitter]
@butaisode_katoh

Hottest PR!

大阪大学で日々生み出される研究成果。
このうち、2021年1月から6月末までの反響（WEB閲覧数や新聞報道等）が
大きかったプレスリリース記事をご紹介します。



時代の先を行く知見がいっぱい。
大阪大学からプレスリリースした研究成果は「ResOU（リソウ）」でご覧いただけます。
<https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research>

ResOU リソウ ページビュー TOP5

1 新型コロナウイルスの感染を増強する抗体を発見

COVID-19の重症化に関与する可能性

34,294 PV

2 世界初！フル解像度8K映像を非圧縮で無線伝送

テラヘルツがBeyond5G、6Gへと加速する

8,725 PV

3 Terahertz accelerates beyond 5G towards 6G

6,513 PV

4 数ヶ月を2週間に！迅速・簡便な新型コロナウイルス人工合成技術を開発

新型コロナウイルス関連研究の加速化に貢献

2,820 PV

5 肥満リスクに新知見！朝食のほかに夕食の摂取頻度にも注意

大阪大学の学生26,433人を6年間追跡した疫学研究

2,066 PV

新聞等メディア掲載 TOP5

1 緒方洪庵が遺した“開かずの薬瓶”非破壊で解明

ミュオンビームによる医療文化財の分析に成功

報道メディア：NHK ほか 42件

2 新型コロナウイルスの感染を増強する抗体を発見

COVID-19の重症化に関与する可能性

報道メディア：日本経済新聞電子版 ほか 36件

3 唾液で新型コロナウイルスを5分で迅速検査

報道メディア：毎日新聞 ほか 21件

4 iPS細胞から結膜上皮の作製法を確立

眼疾患への創薬・再生医療研究を加速させる新技術

報道メディア：日刊工業新聞 ほか 13件

5 数ヶ月を2週間に！迅速・簡便な新型コロナウイルス人工合成技術を開発

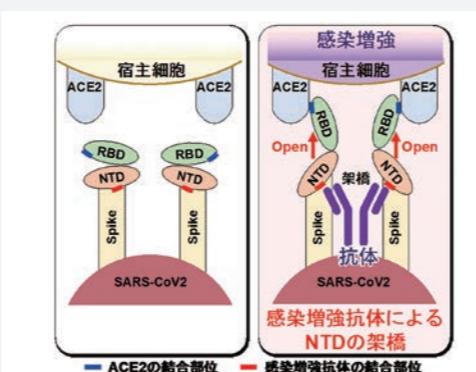
新型コロナウイルス関連研究の加速化に貢献

報道メディア：日刊工業新聞 ほか 10件

Pick Up

新型コロナウイルスの感染を増強する抗体を発見 COVID-19の重症化に関与する可能性

2021/5/25



ResOU リソウ <http://osku.jp/t0919>



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する新たな発見に、新聞・WEB共に本件に注目が集まりました。

報道メディア：日本経済新聞電子版 ほか 36件 (ResOUページビュー数: 34,294件)

Pick Up

緒方洪庵が遺した“開かずの薬瓶” 非破壊で解明 ミュオンビームによる 医療文化財の分析に成功

大阪大学総合学術博物館の高橋京子招へい教授らは、緒方洪庵の薬箱に収められたガラス製薬瓶のうち、開栓できずこれまで不明であった内容物について、ミュオンビーム（ミュオン特性X線分析）を用いた測定により同定することに成功しました。



ResOU リソウ <http://osku.jp/p0851>



非破壊による検査技術の発達によって、容器を破壊せずに資料の全容解明が可能となることが示され、今後医療文化財などの解析が進むことに大きな期待ができます。歴史的な遺産であることからも大きな注目を集め、長きにわたりメディアから何度も取り上げられました。

報道メディア：NHK ほか 42件 (ResOUページビュー数: 1,305件)



元気です！阪大生

大阪大学舞踏研究会

楽しみ、楽しませる 全員初心者から掴む 「全国優勝」

近年、バラエティー番組でタレントが挑戦したり、漫画にも描かれていた注目の「競技ダンス」。社交ダンスと違うのは、様々な項目で技術を競う点だ。昨年、「第65回全日本学生競技ダンス選手権大会」団体の部で初の総合優勝に貢献した舞踏研究会の4年生4名に、強さの秘訣や競技ダンスの魅力を聞いた。

スポーツであり、芸術であり

「全く知らない世界でしたが、楽しそうな先輩方にひかれました」と話すのは主将の襟立智暉さん。高校時代バスケットボール部だった市川馨さんは「スポーツでありながら芸術性も求められ、奥が深い」と語る。

競技ダンスには、男女が決められた組み方で踊る「スタンダード」と、ポジションを自在に変えながら踊る「ラテンアメリカン（以下、ラテン）」の2種類ある。1年生で両方練習し、2年生でどちらかを選ぶ。

「最初に習うのはワルツとルンバ。どんどん興味がわいて他の種目も覚えていきます」と中島克也さん。「先輩方のデモンストレーションを初めて見た時に『ラテンがやりたい！』と思いました」と表情豊かな笑顔で話すのは染次優香さん。希望どおりラテン担当となり、襟立さんとペアを組む。市川さんと中島さんはスタンダードのペア。「私たちとは正反対で、情熱を内に秘めている」とは染次さんの評だ。

強さの秘密は「主体性」

全体練習は、週2回。夏合宿や強化練習会もあるが、昨年度は、感染症拡大のため大半が活動中止を余儀なくされた。

ペアで踊ってこそその競技ダンス。全国大会に向けて、どうやって技術を磨き、モチベーションを維持したのか。4人が口にしたのは、やはり「先輩の姿」だった。

「先輩方が皆、自分が必要なことを理解し努力を重ねていた。僕らも頑張らねばと思いました」と襟立さんは力を込める。市川さんは、強さの秘密を「主体性があること」と言う。「個性を伸ばすことがチームの多様性を生み、刺激になります。個人競技とも団体競技とも違うけれど、共通の目標をもっているから団結しています。テクニックもさることながら、「内に秘めた熱意」が代々

引き継がれているのだろう。久しぶりにペアで練習した日のことを染次さんは「とても新鮮で、組めるだけで嬉しかった」と振り返る。純粋な喜びが技術の向上、総合優勝へつながった。

全員初心者から。誰にでも全国優勝のチャンス

今は後輩たちを育てる立場。しかし新入生勧誘も指導もままならぬ状況は続く。

後輩たちには「自分が楽しまないと、観ている人を楽しませることはできない。だからまずは自分が楽しんでほしい」と襟立さん。その秘訣を「『誰よりも姿勢がいい』『私の笑顔を見て』とか何でもいいから一つ自信のあることを見つけて、そこを伸ばしてほしい」とペアの染次さん。競技ダンスの魅力を「様々なタイプの人がいる懐の深さ」と中島さんが語れば、市川さんは「競技ダンスを始めるのは、ほぼ全員が大学から。全国優勝は簡単ではないけれど、誰にでもチャンスがある。新しいことを始めたい人に勧めたい」と息のあった答えで締めてくれた。彼らの言葉には、競技ダンスに真摯に向き合ってきた想いと、一步ずつ高い目標まで歩んできた者ならではの説得力があった。

最後の大会出場・連覇に向け、鍛錬を重ねる日々が続く。

（2021年7月取材）



身近な健康・医療情報を、
大阪大学の研究者が
ちょっとミミヨリとして
お届けするコラム。

[Column Entry No.008]

大阪大学大学院歯学研究科
口腔分子感染制御学講座（歯科保存学教室）
教授

林 美加子



大人の歯のつけ根のむし歯「根面う蝕」に注意

超高齢社会における大人のむし歯の増加

超高齢社会において、口の健康の大切さが認識されるようになってきました。昨今では半数以上の80歳の方が20本以上の歯をキープできていますが、多くの歯が残るようになった高齢者には、歯のつけ根にできるむし歯「根面う蝕」が急増しています。特に、歯周病で歯を支える骨が目減りすると、それまで歯ぐきに覆われていた歯のつけ根が現れるようになります。「歯が長くなった」と感じる原因是歯のつけ根の露出のためであり、その象牙質は、かみ合わせ部分のエナメル質と比べて明らかにむし歯になりやすいのです。

また、高齢者の根面う蝕は、唾液(つば)の減少と大きな関係があります。唾液は食事の際の飲み込みをスムーズにしたり、免疫力を発揮したりと体に欠かせないものであると同時に、むし歯予防の観点からは酸を中和する大切な役目があります。唾液は、加齢とともに減少することに加えて、高血圧やアレルギーに対する薬を服用したり、頭や首のがんに対する放射線治療を受けた場合には、その減少は著しく、一気に根面う蝕が進行しやすくなります。



▲ 前歯の根面う蝕；
歯周病治療の後、露出した歯のつけ根に発症した。



▲ 奥歯の根面う蝕；
歯ぐきのがんに対する放射線治療の後、
唾液が減少して急速に進行した。

■ 大阪大学大学院歯学研究科
口腔分子感染制御学講座（歯科保存学教室）

歯科保存学教室では、名前の通り『歯を抜くことなく保存すること』を目指した研究および診療を行っています。

[URL]
<https://web.dent.osaka-u.ac.jp/conserve/>

ちょっとミミヨリ健康学⑦
「アレルギー、なぜ起こる？」
[URL] http://osku.jp/NL84_COLUMN7

2022年4月に「大学院人文学研究科」を新設！

人文学研究科
Webページより

2022年4月1日に大阪大学は大学院文学研究科と言語文化研究科を統合し、5つの専攻(人文学／言語文化学／外国学／日本学／芸術学)から成り立つ「大学院人文学研究科」を新設します。5専攻の特色あるプログラムに加え、専攻を横断する組織として「人文学林」を設置し「学術マトリックス」を設けることで、専攻横断的な交流の振興などを進めていきます。

人文学の役割変容を見据え、思想・歴史・文学・言語文化・社会・芸術など多領域にわたり超横断的な学びの場を提供し、国際的な相互理解を推進する研究者・高度専門職業人を育成します。

【詳細はこちらのURLをご覧ください】

<https://www.hmt.osaka-u.ac.jp/>

※右記のコードからもアクセスいただけます。



大阪大学の精神的源流を訪ねて －緒方洪庵の教えより－



往診はいい加減に何度も行うよりも、
一回に心を入れて綿密にするべきだ。
しかし尊大になって、しばしば診察することを
怠るのはよろしくない。

— 緒方洪庵「扶氏医戒之略」第六条

適塾の活動について▶



阪大ファミリーの皆さま必見！ 「大阪大学ホームカミングデイ2021 ～大阪大学の集い@オンライン～」



今年も阪大ファミリーが集うイベントをオンラインで実施！オンラインならではの企画もありますので、ぜひご視聴ください。

【日 時】 2021年11月7日(日)

【内 容】 ● 大阪大学の近況報告(動画配信)

● 同窓会連合会会長挨拶(動画配信)

● コロナ禍における大阪大学の社会貢献について(動画配信)

● キャンパス紹介シリーズ

各キャンパス食堂巡り(動画配信)

【URL】 <https://ou2021hcd.alumni.osaka-u.ac.jp>

※ 詳細は特設Webページをご覧ください。

※ 右記のコードからもアクセスいただけます。



大阪大学未来基金のご案内

教育と研究は未来です。

大阪大学では、教育研究活動や人材育成を目的とする

「大阪大学未来基金」を設けております。

未来を支えるため、卒業生、地域社会、企業のみなさまからの
ご支援をお願い申し上げます。

大阪大学未来基金 検索

www.miraikikin.osaka-u.ac.jp

未来基金についてのお問い合わせ: 大阪大学未来基金事務局

Tel: 06-6879-8327 Fax: 06-6879-4337

e-mail: kikin@office.osaka-u.ac.jp

——アンケートご協力のお願い——
「大阪大学NewsLetter」の充実した誌面作りのために、読者の皆様のご意見等をお聞きするアンケートにご協力をお願ひいたします。
アンケートにご協力いただきプレゼントに応募された方の中から抽選で3名様に「阪大薫る珈琲」ギフトボックスをプレゼントいたします。



■ アンケート及びプレゼント応募締切: 2021年11月30日(火)

■ ご回答方法: 大阪大学公式Webにてご回答ください。

[URL] http://osku.jp/NL_Q (左記のコードからもアクセスいただけます。)

■ プレゼント応募方法: アンケートの最後に必要事項を入力してください。

[アンケートに関するお問い合わせ] 大阪大学企画部広報課報道係 Tel: 06-6879-7017



NewsLetter

[大阪大学ニュースレター]

Semiannual Magazine Autumn 2021 NO. 85

- 発行月: 令和3年9月 ● 発行: 大阪大学企画部広報課 TEL 565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 Tel: 06-6877-5111
- 企画・編集: 大阪大学企画部広報課 ● 制作: 大阪大学広報企画本部クリエイティブユニット
- 取材・撮影協力: 毎日新聞大阪事業本部

あなたの役にたつのなら、私はうれしい。

阪大 StoryZ(ストーリーズ)



[バックナンバー]
http://osku.jp/OU_NL